

桜采

OUDA

 NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU
SINCE 1957

第17号



2020年2月竣工予定の新校舎完成予想図
イメージ図は阿武隈川上空からの眺め

発行日/2019年8月1日

発行/日本大学東北高等学校同窓会
郡山市田村町徳定字中河原1

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

編集/日本大学東北高等学校同窓会桜采編集部



2018.10.13



2018.10.22



2018.11.10



2018.11.10



2018.11.20



2018.12.01



2018.12.22



2018.11.10



2018.12.25



2019.07.20 完成間近の新校舎



2019.03.01



2019.03.01



2019.03.14



2019.04.06



2019.04.08



2019.04.17



2019.03.14



2019.04.18



内観イメージパース 大階段

新校舎建設工事は来年2020年2月の竣工式に向けて、急ピッチで進んでいる。また8月9～10日には内部向けの工事見学会があるという。上記の写真は前号(3号館解体～基礎工事)に引き続き、その後の工事進捗状況を載せている。

会長あいさつ

～母校新時代始動の いぶき～

日本大学東北高等学校
同窓会会長

16期生 村山 廣嗣



同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。各支部の総会も終了し、新たな年度(事業)へと活動を始めておられることと存じます。

さて、本同窓会総会も令和元年7月6日(土)母校アカシヤ館で開催され、多くの同窓生に参加をいただきありがとうございました。各議案とも可決され令和元年～2年度事業が成立したところであります。役員改選も全員留任で選任されました。会長の私も今後2年間浅学非才ではありますが、引き続き会長職を努めて参りますので宜しくご指導

ご協力いただけますようお願い致します。

会報誌で毎回お知らせしている校舎改築ですが、2020年の春に完成であります。そこからまた日大東北高校の新たな歴史が始まろうとしています。母校の教育では工学部連携クラスの新設やICT授業の拡充など、学校も生徒も大きく変革しております。学校同様同窓会も変化しなければならない時期に来ているのではないのでしょうか。同窓生も3万6千560名を数え県内一の同窓生を抱える同窓会になりました。

つきましては同窓会員の更なる融和と親睦、そして「現役生徒のために私たち同窓会は何ができるのか」を一番に考え、各種事業に取り組んで参ります。皆様方の積極的な参加、ご支援ご協力をお願い致します。

最期に、同窓会会員の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

学校長あいさつ

同窓会の皆様へ

～令和元年

日本大学東北高等学校

発展のために～

学校長 南 尊雄



炎暑の候、同窓会会員の皆様におかれましては、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。村山廣嗣会長のもと、総会の実施、各支部会員相互の親睦や交流、同窓会会報誌「桜染」の発行など同窓会の活発な活動、慶賀の至りに存じます。また、長年の功績が認められ、叙勲・褒章の栄に浴された会員の輩出は、私たちの誇りでもあります。

校長に就任して2年目になりますが、同窓会による学校行事や課外活動の支援、生徒募集、備品調達など、教育活動の推進に当たり、物心両面に渡る御支援を賜り、衷心より感謝申し上げます。

さて、本校の近況につきましては、3月2日に『第66回卒業証書授与式』を挙行し、419名の生徒が学舎を巣立ちました。本校で学んだことを糧に、新しい環境で更に飛躍されることを祈念しております。全国的に少子化が進む中、特に震災の影響を受けている福島県内の私学を取り巻く環境は厳しいものがありますが、本校は春の陽が降り注ぐ4月6日、真新しい制服を身につけた468名(男子249名、女子219名)の新入生を迎えることが出来ました。2学年は444名(男子244名、女子200名)、3学年は436名(男子230名、女子206名)で全校生徒数は1348名(男子723名・女子625名)、教職員は111名(男子71名、女子40名)という県内屈指の大規模校です。

伸びやかな個性を育む学習指導、夢の実現に即した進路指導、多くの部活動が県大会、東北大会、全国大会で活躍し、定期演奏会実施や校内献血の協力・JRマナーアップキャンペーン運動参加など、地域の皆様方から年々高い評価を戴いております。

一昨年完成した人工芝のグラウンド、来年2月に念願の新校舎竣工と、教育環境が一新します。来年度の新入生からICT教育が本格化し、タブレット端末と電子黒板を用いた授業を展開し、「知識・理解」や「技能・表現」を基にした学力向上が期待されます。現在、全国的に教育改革が求められていますが、本校の教育目的・校訓『1. 忠恕の心、2. 自主創造、3. 真剣力行』の3つの柱を基盤とした教育は不変と考えております。

『平成』から『令和』に改元されました。新元号の典拠は「万葉集」の「梅の花の歌」で、「人々が心を寄せ合う中で、文化が育つ」という思いが込められていると首相が談話で発表されました。8年前に経験した東日本大震災のあの惨状下でも、暴動や略奪は起こらず、皆で助け合い励まし合う姿を世界各国の人々が絶賛した日本人の“和の心”に相通じるものを感じます。

令和時代のスタートにあたり教職員一同、元号に籠められた思いを大切に、生徒・保護者、同窓会、後援会、学校関係者の皆様と心を寄せ合い、本校がより“魅力ある学校”になり、多くの中学生から“入学したい学校”と評価されるよう学校運営に携わる所存であります。

結びに、今後とも母校日本大学東北高校への温かいご支援を賜りますと共に、同窓会の益々のご発展、並びに各位のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

歩む道を決定付けた 我が母校

普通科2組 昭和44年卒 第16期生
池宮城 晃



日大東北工業高等学校を卒業したのは1969年春だから、あれから半世紀が過ぎたことになる。

中学を卒業するまで沖縄那覇市で生まれ育った私は、米国の施政権下での自身の現状に将来が全く見えず、福島県出身の母に懇願して郡山の叔父のところまで面倒をみてもらうことになり、近所に下宿して日大東北工業高校に通うことになった。

当時、沖縄から本土に渡航するには米国琉球民政府が発行するパスポートが必要だった。顔写真の横には「右の者は琉球列島住民であることを証明する」と書かれており、国籍欄は無く現地人という立場であった。

郡山までの旅程は船で鹿児島まで24時間、鹿児島から東京までの急行列車は28時間、上野から郡山までは3時間半だった。

郡山で生活を始めた頃、「うすい百貨店」の屋上から眺めた景色は、北には安達太良山などの奥羽山脈が連なり、東は阿武隈山地、西には磐梯山も遠望できる大自然の景観を眺めながら、米国統治下で戦後復興期中の沖縄しか知らない私はどうしていいのかと一時は途方にくれたこともあった。

しかし郡山で新たにできた友人達は、南の島からきた私のことを最初は珍しがりにはしたものの皆受け入れてくれた。担任は後に教頭先生を務められた阿部雄一先生で、3年間受けもっていただいた。当時の母校は完全な男子校で全校生徒は2000名くらいだったと記憶する。

エレキギター全盛期で、ベンチャーズやビートルズの曲「ミッシェル」などが市中には流れていた。全体的に古い街に見えたが、高度経済成長の影響は東北の街々にもすぐに現れてきた。数年で衣料品店はカジュアル的なメンズショップやブティックへと現代的な姿に変わり、駅前の桜通りも明るさと華やかさを増し、自転車通学がバイクへと変わっていった。

その頃まで沖縄の本土復帰の日がくるのかわからなかったが、郡山に来て二か月後の1965年8月、当時の佐藤栄作首相が総理としては戦後初めて沖縄を訪問し、本土復帰が具現化し始めた。私はそのニュースを聞いて故郷・沖縄から取り残されたような気持になったのを昨日のことのように覚えている。

沖縄が数年後に日本に返還されるのなら、その時までに

は戻って何かをしなければと本気で考えた。米国軍政下の終焉を見ずにはおれなかったからだ。

郡山の叔父は役所勤めをしており、アマチュアカメラマンでもあった。写真雑誌を貸してもらって見ているうちに、報道カメラマンとして本土復帰を記録するという道があることを思いついた。

高校一年の春休みに沖縄に帰省した際、父に写真のこ



1967年度 卒業アルバムから



1967年 安達太良山で。
日大東北工業高等学校在学時代。

とを打ち明けたら猛烈に反対された。事業を営んでいる家の子供は家業を継ぐのが当然だという。それでも母が『陰で応援するから好きな道に進みなさい』と言ってくれたので、父の反対に拘わらず写真を専攻することにした。学校では写真部に属した。

芸術学部写真学科に進学するつもりだったが、沖縄返還が三年後の1972年らしいことがわかってきた。大学進学をしては途中で本土復帰を迎えることになる。遅くとも1年前から沖縄で撮影を始めなければ意味がない。2年間で卒業する写真専門学校に進学することにした。

担任の阿部雄一先生に進路変更を伝えた時、「お前、それでいいのか？」と怪訝そうに問いただされた先生のお顔を今でも思い出す。「時間がないのです」と答えたのを覚えているのだが、計画など先生には話したことはなく、意味不明で失礼な返事をしてしまったと今でも思っている。

卒業後、東京の写真専門学院で報道写真を学び、沖縄に戻ったのは本土復帰まで1年を残すところの1971年の春だった。その日から米国統治下の終焉という様々な出来事にカメラを手に立ち会ってきたつもりだ。

1972年5月15日に戦後27年間続いた米国統治が終わり、撮影の目標を失ってしまった私は父の家業を手伝っていたが、以前に声掛けしていた毎日新聞社から復帰初代那覇支局に勤めないかという話をもらった。写真記者として沖縄を撮影継続できることは、私の希望するところなので迷うことなく入社を決めた。

那覇支局では復帰直後から沖縄国際海洋博覧会終了までの4年半勤めたが、米国統治の後遺症と言ってもいい

い不紊理な問題が噴出した事件ばかりだった。今に続く沖縄問題は本土復帰で終了したのではなく、新たに始まったことであることを実感させられた。

その間の仕事ぶりが認められたのか福岡の西部本社



1978年
成田空港開港式取材。
毎日新聞写真部員時代



九州地区全新聞社加盟が選ぶ、年間を通して優秀な写真と与えられる1980年度の「九州写真撮影家協会賞本賞」を受賞。

写真部へ転勤となった。本社では難しい仕事も任せてもらったが、仕事とは言え、自分とは無関係の出来事に力を注がなければならないことに疑問が湧いてきて撮影することが嫌になってきた。職業として毎日新聞の写真記者を続けるのか、それとも素人に戻って自由な写真を撮るのかという選択を自ら迫った。

私の原点は高等学校時代に決めた写真であり、その結果が復帰前から撮影し続けた沖縄だったはずだという勝手な結論に達し、会社経営の父が老齢化による家業の引継ぎを理由に、7年半勤めた新聞社を辞め、30歳で沖縄に戻った。その後、自らカメラマンと名乗ったことはないし、写真で糧を得たこともない。それから5年間は家業に勤しんで写真から全く遠ざかっていた。

1984年に新社屋が完成して一息付いていたところに、沖縄外地引揚者協会から遺族団員として旧満州へ行かないかと父に誘いがあった。

母が福島県出身である理由だが、現在の南相馬市小高区出身である祖父は家族全員とともに戦前の満州国新京市（現在の長春市）に移住しており、沖縄から単身で満州に渡っていた父と職場結婚したという経緯があり、姉や兄は満州生まれである。

敗戦前に沖縄から呼び寄せていた叔父は根こそぎ動員といわれる現地招集によってソビエト国境付近で戦病死し、遺骨も帰っていない。そういうことから遺族団としての旅行の誘いだったが、あいにく父は体調を崩しており、私が代理として慰霊の旅に参加することになった。

私が行けば、写真にして福島のご祖母や親戚にも満洲時

代に住んだ住居跡などを見せることができるからだった。北京国際空港から市内までの一本道をバスの車窓から眺めた光景に強烈な衝撃を受けた。訪れるまで中国らしい国があると想像していたが、そうではなく、40年くらい前のまま時間が停滞しているのだと痛感した。車窓から見る街や人々の生活は、荷馬車が走り、街の中では鶏に家鴨が放し飼いで、露店のような自転車修理屋や鍛冶屋が並んでいる。全体的に古ぼけていて、私が幼かったころの記憶にある戦後復興初期の沖縄の光景そのものであった。

呆然と眺めながら、その時、自分たちが少しでも先の時代を歩いているのなら、何等かの手伝いができるのではと頭に浮かんだのは確かである。

北京から瀋陽、長春、ハルビンと旧満州の東北地域各都市を訪れた2週間の慰霊の旅だった。二年後に、その時に撮影した写真を編集して『旧満州の街角1984年』という写真小冊子を作った。父が満州時代の同僚たちにも見せたいということだったが、それが口伝で広がり、手にされた大勢の人達から感想が寄せられた。在満体験者の想いというものがあるのが如何に深いものかを知った。その人達から改めて写真の力を知らされた。高齢化する在満体験者の為になるのであればと、再度、本格的に旧満州の撮影取材を計画することにした。

当時の中国は対外改革開放政策初期で、東北各地の街々は訪れることができるようになったばかりで、数度に別けて訪ねるのは不都合があり、一気に旧満州全域を52日間で19都市訪ねることにした。個人旅行は認められておらず、撮影スケジュール表には「中国東北地区撮影旅行団一名」とあり、中国語も話せないのに一人旅であった。

撮影取材から戻った二年後の1988年に写真集『旧満州』として自社出版した。その本には満州の生活体験を持つ俳優の森繁久彌氏や岩波ホール総支配人の高野悦子さんに手紙で寄稿のお願いをしたところ了解いただき、寄せられた文章も使わせてもらっている。

この写真集の発行で私と中国の関係は終了したと思っていた。

世話になった中国の人達にも記念に一冊ずつ送ったのだが、大連市人民政府観光局から私宛に日本人の若者向けの観光写真集を共同作成しないかという相談が舞い込んだ。その後、共同制作の話があった大連の観光写真作成も、天安門事件の発生で日本政府から中国旅行自粛勧告が出された中を何度か取材して、一年がかりで作り上げた。

また満州に関する歴史上の人物である張学良将軍が健在ということを知り、台湾の住所に写真集を送ったところ、本人から直筆の返礼が送られてくるという幸運に恵まれた。張学良は日中戦争以来、国民党政府により長年幽閉され続けたことになっており、それまで生存す

公にはされていなかった政治家で、父親は日本の歴史上も名高い張作霖である。

世界の報道機関の取材要請を避けてきた張学良の単独撮影を三年かけて本人より許された。9年後、百歳を迎



張学良私邸の執務室兼応接室にて。右は張学良。1992年 張学良の肖像

※この写真は、2001年に張学良の死去を報じた記事と一緒に中国全土新聞の掲載された遺影。ハワイの葬儀には遺影として掲げられた。フィルム原版は撮影者である筆者の手元にある。

えた張学良は移り住んだハワイで亡くなられたが、訃報を報じる中国全土の新聞と葬儀の際に掲げられた肖像写真は私が撮影したものであったことは内なる誇りである。

こうして私の写真と中国の関係は続き、中国の人達からは信頼を得られたようで、大連市から我社(株)池宮商会に大連に企業進出しないかと誘いがあった。これに至る経緯は人と時代、時期それに運に恵まれたとしか説明のしようがない。

1994年から2009年まで15年間を進出企業の責任者として家内と二人で中国大連市に駐在した。理由として仕事以外に、敗戦で全てを失い日本に引き揚げざるを得なかった祖父や父達の想いを、私の代で完成させられるのではということだった。中国の人達と協力し合って事業を成



大連市人民政府から依頼を受けた観光写真集の出版記念会
1990年東京日比谷の松本楼にて
左から富永孝子さん(作家)、高野悦子さん(岩波ホール総支配人)、
筆者本人、大来佐武郎氏(元・外務大臣)、大連市副市長 薄熙来氏

功させるということだが、北京オリンピックの終了を区切りとして進出した印刷会社を清算した。小企業でしかない我が社の企業進出はその目的を十分に遂げられたと自負している。

2009年に戻った沖縄は米軍基地移転など本土復帰から40年以上が過ぎても問題が再燃しており、以前の統

きとしてカメラを手にしていたが、2011年3月11日に起きた東北地方を震源とした東日本大震災には、ただ愕然とするしかなかった。

福島第一原発事故の発生により祖父の故郷旧小高町も避難指示区域となり立ち入ることはできなかったが、数年後に解除となった段階で行ってみた。郡山の時代に夏休みで小高に親戚を訪ね、町内の盆踊の参加や、釣りに連れて行ってもらったことのある小高の町は、駅は閉鎖され、人影もなく、常磐線より東は海まで津波の傷跡が生々しく、押し寄せたまま残った潮が生臭い湿地帯として残る田畑には車や釣舟がまだ転がっていた。崩れたり拉げたりした家屋を前に涙が滲んだものである。その後も復興していく姿を自分なりにカメラを通して見続けたいと何度か訪ねている。

いろいろと書き連ねてしまったが、撮影ということを商売ではなく、義務と信じてきた結果の話であり、計画性などなくこうなったという単なる個人の体験談でしかない。

卒業して50年過ぎた今でも、校舎裏の香るアカシヤ林から聞こえてくる閑古鳥の鳴き声、花吹雪の中を通学した日大正門の桜並木、下宿の庭に姿を見せたスズランの花、猪苗代湖畔に咲く水芭蕉、夏のスカイラインで見たハクサンシャクナゲ、雪の中の自転車通学…等々。姿を消したというあの教室と先生方や同級生達の姿が目浮かぶのである。

連れ添っている家内は、郡山の時代に東北でも沖縄でもない遠方の街で知り合った。沖縄や中国の慣れない生活だったはずだが、計画性のない私を半世紀近く支えてくれている。現在に至る出来事はすべて日大東北高等学校在学時代にもたらされたということだ。

福島県の震災からの早期復興と、日大東北高校に関係する先生方、学友や在校生の皆様の健康と活躍を心より南の島から願っている。



30余年前に満州撮影した写真は、今では貴重な記録になっており、改革開放政策40周年を記念した写真展が開催され、開会式に招待されたときのカット。(吉林省長春市の長春市図書館にて 2018年)

これまで自社で出版した写真集

筆者現住所：〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地2-4-23 (株)池宮商会

平成30年度 母校の行事



入学式



体育大会



修学旅行



アカシヤ祭



新校舎 地鎮祭



第69次生徒会役員



卒業式

平成30年度 卒業生合格状況 平成30年度卒業生総数419名

※延べ人数

日本大学 229名 国公立大学 28名 他私立大学 170名 専門学校 32名 就職 6名

◆ 日本大学

法	9	商	13	危機管理	4	生産工	14	生物資源	13	短期大	1
文理	27	芸術	6	スポーツ科	2	工	81	薬	2		
経済	21	国際関係	6	理工	27	松戸歯	2	通信教育学部	1		

◆ 国公立大学

秋田大学	1	宇都宮大学	2	上越教育大学	1	会津大学	2	山形県米沢女子短大	1
山形大学	2	一橋大学	1	青森公立大学	2	福島県立医大	1	会津大学短大部	3
福島大学	5	新潟大学	4	秋田県立大学	1	首都大学東京	2		

◆ 私立大学

中央大学	2	同志社大学	2	専修大学	5	東都医療大	1	東北学院大学	6
東京理科大学	3	成蹊大学	2	芝浦工業大学	4	立命館大学	1	東北福祉大学	1
明治大学	2	東洋大学	5	明治学院大学	2	国学院大学	1	新潟医療福祉大学	4
法政大学	1	日本薬大学	1	駿河台大学	2	国際医療福祉大学	10	東北医薬大学	1

※詳細は学校HPをご覧ください。 ほか

三世代賞

平成30年度は、今泉笑さん、伊藤凜太郎さん、安藤るあさん、國分亜美さん、安田理央さんの5名が受賞。受賞者には三世代の名前の入った記念の楯と記念品として置き時計が贈られました。平成29年度までに44名の受賞があり、今回の5名を合わせると計49名の受賞となっています。



※「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖母君様の三世代に亘る母校愛に敬意を表すもので、平成15年度に設けられました。

平成30年度 退職された先生

※敬称略



【保健体育科】
松井 弘之
勤務期間：平成24年4月1日～平成30年4月14日
勤続年数：6年



【芸術科】
橋本 誠
勤務期間：昭和52年4月1日～平成30年4月5日
勤続年数：42年



【保健体育科】
斎藤 政雄
勤務期間：昭和53年4月1日～平成31年3月31日
勤続年数：41年



【数学科】
早坂 貢
勤務期間：平成26年4月1日～平成31年3月31日
勤続年数：5年



【国語科】
山崎 知加
勤務期間：平成26年4月1日～平成31年3月31日
勤続年数：5年



【英語科】
大越 宙顕
勤務期間：平成27年4月1日～平成31年3月31日
勤続年数：4年



【英語科】
坂本 由宇子
勤務期間：平成28年4月1日～平成31年3月31日
勤続年数：3年



【理科】
後藤 紮末
勤務期間：平成28年4月1日～平成31年3月31日
勤続年数：3年



【理科】
安部 允基
勤務期間：平成29年4月1日～平成31年3月31日
勤続年数：2年



【数学科】
鈴木 陽也
勤務期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日
勤続年数：1年

平成30年度 アカシャ会スポーツ・文化功労賞授与



大江 俊希 1組 陸上競技部
大千里 歩美 1組 陸上競技部
奥谷 竜也 1組 相撲部
鈴木 翔 1組 陸上競技部
高森 唯 1組 柔道部
橋爪 周平 1組 陸上競技部
西崎 滂 1組 陸上競技部
伊藤 尚宏 2組 合唱部
國井 彩乃 2組 合唱部
青木 美咲 3組 合唱部
小森 幸斗 3組 体操部

志賀 春香 3組 合唱部
大塚 源希 5組 硬式テニス部
金山 ゆいな 5組 ライフル射撃部
鳴原 良 5組 体操部
増子 香奈 5組 ライフル射撃部
上田 琴音 6組 合唱部
原口 将希 6組 体操部
荒川 栞 8組 合唱部
大沼 陽菜 9組 硬式テニス部
佐藤 由美子 9組 ライフル射撃部

平成30年度 アカシャ会学業努力賞授与



菊池 竜馬 1組 川越 温生 7組
菅野 真由 2組 木船 智尋 9組
関根 美可 2組 今泉 瞳 10組
渡部 未来 2組 遠藤 駿 10組
安部 嘉葵 3組 高野 雄人 10組



令和元年度教育実習生

今回の実習生を通じて『挨拶の大切さ』、『先生としての責任感』、『高校時代には見えなかった先生の大変さと生徒への影響力の強さ』を実感したと語ってくれたのは、音楽を担当した吉成 仁さん。最近、教員はブラック(企業?)などと揶揄されることもあるが、生徒の成長をサポートすることで、他では味わえない感動が得られる素敵な職業であることを実感したという。

さらに、生徒とともに自分も成長できる教員志望への思いが益々強くなったとのこと。

15名の実習生の皆さん、ぜひ各自の夢に向かって大きく羽ばたいて下さい。



今泉雄太 (地公:日本史)、藤井温子 (地公:公民)、野崎将平 (地公:公民)、宮下諒 (数学)、高橋利旺 (数学)、伊藤孝宏 (理科:化学)、森合駿斗 (理科:生物)、官澤博斗 (保健体育)、佐藤敏己 (保健体育)、峯村智志 (保健体育)、山内翼 (保健体育)、結城汰一 (保健体育)、渡辺優 (保健体育)、吉成仁 (芸術:音楽)、渡邊華 (芸術:音楽)

合唱部 第69回全国植樹祭 出演

昨年6月10日(日)に、天皇皇后両陛下(現・上皇皇后両陛下)をお迎えし、南相馬市原町区雫の海岸防災林整備地区で植樹祭が開催された。県内外から集まった来場者約8千人が「育てよう 希望の森を いのちの森を」をテーマに、植樹などを行った。

母校の合唱部は、式典での演奏に参加し、GreeeeNが手掛けた大会テーマ曲「福ある島」や福島の今を伝える歌「雲のかなた」など約10曲を披露した。



福島県HP QRコード
「雲のかなた」音源



退職教職員の会

5月11日(土)昨年同様アカシヤ館多目的ホール1階食堂で退職教職員の会定例総会が開催された。互いの健康状態を気遣い笑顔で歓談される先生方や、3号館解体に伴い渡り廊下がなくなったことで会場ま

で辿り着く難しさをユーモアたっぷりに語り、周囲を笑わせる先生もおられた。天高く長く伸びた稼働中の2本のクレーンアームを仰ぎ見ながら、新校舎建設が順調に進んでいることを目の当たりにし、かつての教員時代を懐かしむ先生方の表情と総会看板の「令和元年度」の文字が印象的だった。



1列目左より 横山節哉先生 塩田正宏先生 塩谷郁夫先生 小山田正宏先生 南尊雄校長 渡邊弘幸教頭 阿部雄一先生 菊地修三先生 山岸利正先生
2列目左より 大木進先生 小林直喜先生 外山公平元課長 佐藤光良元課長補佐 太田興亜先生 齊藤栄一先生 猪腰嘉勝先生 松本幹雄先生
海老名幸男先生 青木文次先生

バスケットボール部 斎藤政雄先生退職慰労会開催される

平成31年3月16日(土)に郡山ビューホテルにて、斎藤政雄先生退職慰労会が開催された。

主催は日本大学東北高等学校バスケットボール部OB会(会長:村上清輝氏、昭和60年電気科2組32期卒、代表幹事:薄井長広氏、昭和59年工業化学科31期卒)。

斎藤政雄先生は母校の保健体育科教員として多くの卒業生を社会に送り出すとともに、母校バスケットボール部の顧問として、永くその発展に大きく寄与された。その間、県大会8回の優勝、全国大会への出場4回、さらにプロ選手2名を輩出された。

主催者側の慰労の挨拶に引き続き、各年代の代表者(当時のキャプテン)からそれぞれ慰労の言葉があった。

政雄先生からは40年間教員としてのバスケットボール人生をふりかえり、バスケットボールはもちろんのこと、生徒や保護者にも真摯に向き合ってきたことが語られ、応援して下さいましたすべての方々への謝意が述べられた。また、会場に詰めかけた122名の元部員や同席された夫人への感謝の想いも添えられた。

なお、政雄先生より特に熱い指導を受けた小川貴之先生(体育クラス出身:担任渡邊弘幸現教頭先生)は、中学校教員を経て今年4月から母校に赴任し、斎藤先生の後任として生徒を指導しているが、会場での想いとして「たくさんのOBに囲まれ、涙を浮かべて感謝の言葉を述べる政雄先生に心を打たれました。政雄先生が今まで築き上げた伝統を守り、更に強いチームを作れるように全身全霊頑張りたいと思います」と決意を語ってくれた。



部活動OB会

体操部OB・OG会定例総会



青木先生を中心に約70名のメンバーが集い楽しいひとときを過ごした。
2019年1月3日 於:ビューホテルアネックス

バドミントン部OB・OG大会 2018



今年は8月11日(日)山の日に開催予定 工学部講堂に集合!!

野球部OB会



第101回全国高等学校野球選手権福島大会
大会予定および結果はこちらから

日大東北高校野球部OB会



野球部OB会HP

相鉄アカシヤ会同窓会だより

昭和43年卒 15期生 普通科 橋本 公三氏

私たちが勤めていた横浜を拠点とした相模鉄道の卒業生です。

今から57年前に、相模鉄道の門を叩いた一期生(五十嵐林三・井上恵介・橋本忠夫・穂積昭八・横田宏)の大活躍で、翌年から毎年わが母校から卒業生を送り込んでいただきました。

私もそのひとりでした。過去を顧みるに、当時は母校の進路指導部(就職担当)先生は、受験生を引率して来ながら、卒業生と逢うことを楽しみにしていたみたいです。われわれも、ふるさとを捨てて来た手前、先生からの最新情報を聞き出せる絶好のチャンスと捉え、歓迎会を開いたものでした。

今だからこそ話せる話ですが、未成年のわたしたちも混じって乾杯をした記憶が蘇ってきました。

当時は、就職するにも競争率が高く、人選するのに学校側も悩んでいたそうです。時代もすっかり変わり、独身寮を設け受け入れ態勢を整えていましたが、現在では地元の高校や大学などの就職先にもなっていました。

いつも、年一回の同窓会を開催するのですが、いまでは病気の話しや孫の話しなどで盛り上がっています。

いまでは、文化勲章などを続々と受賞できる地位まで登り詰めてきました。これもひとえに、母校のご指導・ご支援があつての賜物と感謝しております。卒業生は、いまでも元気に活躍しております。



平成30年11月17日 於:横浜西口 居酒屋「北海道」

受章おめでとうございます



瑞宝双光章

昭和40年卒 12期 工業化学科
(担任: 菊地修三先生)

安藤 誠基 氏

昭和40年(1965年)に会津若松署を振り出しに警備公安部門を歩み、学園紛争の対応に当たった。交通部門では暴走族の撲滅に功績を挙げた。平成19年(2007年)に福島北署交通課長で退職。剣道教士七段の腕前で県剣道連盟事務局長、全日本理事として今も忙しい日々を送る。「禅語の『看却下』の心で、己の立脚する所を常に忘れずに職務に邁進できたのは、妻の支えのおかげであり、心から感謝したい」と述べる。



瑞宝双光章

昭和40年卒 12期 工業化学科
(担任: 菊地修三先生)

大沼 輝敏 氏

元県警運転免許課長。昭和40年(1965年)採用。警務や生活安全、刑事、交通など各部門を経験した。「妻や同僚、地域の皆さんの支えのおかげ」と感慨深げに語り、特に1990年、当時の県警本部生活保安課の特捜班長として被害額約2億円に上る海外先物取引を装った大規模詐欺事件の摘発に尽力したことが思い出深いという。



瑞宝双光章

昭和40年卒 12期 工業化学科
(担任: 菊地修三先生)

小林 多美男 氏

元いわき中央署常盤交番専門官。昭和40年(1965年)採用。成田闘争など危険な現場で奮闘した日々が忘れられないという。機動隊員として活動しながら20年にわたり県警音楽隊に所属し、チューバを演奏。殺伐とした社会情勢の中、警察と県民の架け橋となる音楽隊員として全国を巡る多忙な日々を送った。「同僚や上司、家族に迷惑を掛けたが、思い返せば良い警察人生だった」とふり返る。



瑞宝双光章

昭和41年卒 13期 機械科
(担任: 渡辺和夫先生)

岡部 貞信 氏

元石川署交通課専門官。昭和41年(1966年)採用。念願の初代県警高速隊員を経験するなど交通畑を歩み、事故捜査に明け暮れた。特に交通事故の摘発に尽力し、悲惨な事故現場は今も尚目に焼き付いているという。「自分の仕事はやり切った。妻の支えに感謝したい」と微笑む。



瑞宝双光章

昭和41年卒 13期 電気科
(担任: 三井敬先生)

国分 隆司 氏

昭和41年(1966年)福島県巡査を拝命し、交通部門を中心に活躍。保原(現伊達郡)署交通課係長を経て二本松署警務課係長で退職。「警察官人生を支えてくれた家族や同僚、上司に感謝したい」



瑞宝单光章

昭和49年卒 21期 電気科
(担任: 海老名幸男先生)

太楽 進 氏

元相模鉄道(株)施設部電気センター所長
永年にわたり、列車運行の根幹をなす電力および通信や変電など、電気設備の保守・管理に尽力し、公共交通機関の安全確保に貢献した。「入社以来鉄道信号一筋に、お客様への安全・安心・安定輸送に心がけ、輸送の一員として職務を全うできたことは、ひとえに諸先輩をはじめとする多くの方々のご支援と家族の支えの賜物と心から感謝申し上げたい」と述べ、より一層精進していく決意を語る。



瑞宝单光章

昭和50年卒 22期 土木科
(担任: 佐藤司先生)

植田 和男 氏

昭和50年(1975年)に陸上自衛隊入隊。国土防衛の重責を担い、第九高射特科大隊本部管理中隊通信小隊長で退官。「国土防衛のために仲間と家族に支えられ、任務を全うできたことを感謝したい」



瑞宝双光章

昭和51年卒 23期 土木科
(担任: 鈴木守先生)

緑川 裕美 氏

昭和51年(1976年)陸上自衛隊入隊。郡山駐屯地などで35年間任務を全うし、特科部隊で測量などを担当した。「与えられた受章を栄光に思う。上司や同僚、そして家族に心より感謝したい」と謝意を述べる。

石田全史氏日本JC会頭に就任 福島県初!

「会頭に石田氏(浪江)就任へ」「日本JC、本県から初」

7月6日(土)の午後1時、総会会場に駆けつけた福内浩明氏(第27期普通科卒:現郡山商工会議所専務理事、日本JC副会頭経験)から6日付けの福島民報を受け取った。

1面トップにタイトルの大きな見出しが踊る。定例総会懇親会の冒頭、村山 廣嗣会長はその記事を引用し、母校同窓生から県内初のJC会頭が誕生したことは私たちの誇りだと紹介。前福島県知事佐藤栄佐久氏が昭和53年(1978年)に麻生太郎氏と競い、惜しくも会頭の座を逃したエピソードにふれ、「今回の石田君の会頭就任は実に素晴らしいことです」と述べると会場は大きな拍手に湧いた。

石田全史氏は浪江町の出身。2012年(平成24年)度に浪江JC理事長を務め、日本JCの東北地区福島ブロック協議会会長や東北地区担当常任理事、専務理事などを歴任し、2019年1月から副会頭を務めている。今年10月に富山市で開催される日本JC全国大会総会での承認を得て正式就任が決定する。第69代会頭としての石田氏の任期は令和2(2020)年1月1日からの1年間。(JCの卒業年齢は40歳)

7月16日(火)午前9時、編集局からの要請に応じ、東京出張前に急ぎよ来校。

初めに校長室にて南校長から就任のお祝いの言葉があり、多くの卒業生はもちろん、現役高校生にも大きな励みとなるので、10月の正式就任後に再び母校を訪問をお願いしたいとの依頼に快く承諾していただいた。

高校時代の思い出として「福島ユナイテッドユースチーム(サッカー)」で毎日汗を流したことを挙げ、そのために遠く離れた浪江から郡山に下宿していたと語る。「マラソン大会は苦い思い出で、アカシヤ祭も積極的に参加というよりは、クラスメイトからやや距離を置き遠くから眺めている方でした。男女共学でみんな仲が良かったのでとても楽しかったです。今でも高校の友人たちと定期的に交流しています。ただもう少し若いうちに勉強しておけばよかったと今は少し後悔しています。もちろん3年の受験期は本気で勉強しましたがと…」とほほ笑む。後輩たちへのメッセージを伺ったところ「社会に出たら何にでも挑戦して、誰かのために汗をかける人になってほしい。そのような生き方をすれば、いずれ必ず自分に返ってくるものがあるので、今を大切に生きてほしいですね」と言葉を慎重に選びながら、心地よい低めのトーンの声で語る。会長就任の率直な気持ちを伺うと、「東日本大震災の時に多くの方々からご支援をいただいたので、その恩返しをしていきたい。世の中が少しでも良くなるような青年の活動をしていきたい」と即答。

来年(2020年)は横浜で世界126カ国の3,000名の会員が集う世界大会が開催されるという。福島の希望を世界に発信するご活躍を心よりお祈りいたします。

(文責:編集部高橋)



石田全史氏

平成11年卒 46期 普通科



福島と世界をつなぐ役割への思いを語る石田氏

日本JC会頭就任見通し 石田 全史氏に聞く

福島と世界をつなぐ

日本青年会議所(JC)の二〇二〇(令和二)年度第六十九代会頭に就任する見通しとなった副会頭の石田全史(まさふみ)氏(浪江JC顧問、双葉不動産社長)は福島民報社のインタビューに応じ、「本県など国内の各地域と世界をつなぐ役割を果たす」と意欲を語った。

「正式決定すれば本県の状況を少しでも発信提出するなどJCも必死に活動してきた。古里は唯一無二の心のよりどころだ。復興は道半ばだが、一歩一歩と前に進めるために力を尽くすことが生かされていく。活動の原動力でもある」

「組織づくりに向けた心構えは。『青年が自ら入会しなくなる場所にならない。』」

被災地の状況発信

二〇二〇(令和二)を務めた。被災地への思いは。二〇二〇(令和二)は国内で東京五輪・パラリンピックとJCの世界会議が開かれる。会頭として世界の人に日本の魅力を伝えるとともに、浪江町出身者として被災



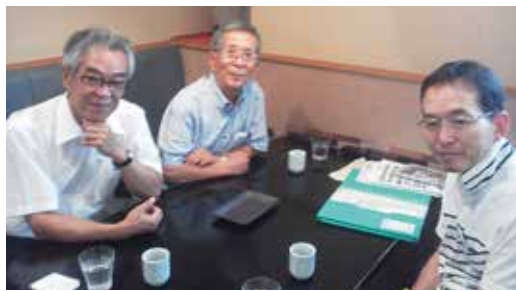
昭和53年卒 25期生 普通科 嶋 栄吉氏

平成30年度活動報告

我がクラスは卒業後、これまで担任の小松基扶先生を囲み、同級生全員を対象としたクラス会を3回実施してきました。

さて、近況報告です。同級生は物故者を除き皆さん元気です。恒例のゴルフコンペやミニ同級会を実施するなど、皆活動的です。卒業して早くも41年が経ち、職場では定年(還暦)の時期を迎え、当時兄貴分の様な青年だった担任の小松基扶先生は喜寿を迎えて、ついに孫を持つ元気なお爺ちゃん(?)になられました。

そこで、「還暦と小松先生の喜寿を祝賀するクラス会」を開催するため、郡山在住の石部和則氏らを幹事として(内諾済)、準備中です。



小松先生と郡山駅で昼飯会平成30年8月12日

最後に、同級生の名簿(連絡先)は小松先生の助言により、母校同窓会名簿を法令遵守して利用したいと思います。つきましては、同級生全員にP13の返信はがきまたはQRコードより『現住所変更』をお願いします。

定例総会

去る7月6日(土)母校アカシヤ館2階多目的ホールにおいて、令和元・2年度の本会定例総会が実施された。会長の挨拶に引き続き、南尊雄校長先生よりお祝いの言葉と現況報告があった。過去2年間の会務報告と決算報告、今後2年間の行事と予算審議がなされ、事務局案が参会者全員の承認を得た。

終了後は1階食堂にて懇親会が開催された。



村山廣嗣会長挨拶



定例総会アカシヤ館多目的ホール



議長は諸越裕氏 写真壇上中央



懇親会



柳沼力夫須賀川支部長 乾杯のご挨拶



金澤裕氏 懇親会中締め

同窓会会員数(第1～第66期)

<おねがい>

●住所及び勤務先などが変更になった場合は、その都度本会ホームページの「住所変更フォーム」または会報誌「桜朶」のはがきに「氏名・卒業年・科名・住所・勤務先及び住所」を記入し、事務局へお知らせください。会報誌の送付、会の運営(記念式典やクラス会のご案内等)を円滑にするためにご協力をお願いいたします。

●事務局 〒963-1165 福島県郡山市田村町徳定字中河原1 日本大学東北高等学校同窓会(アカシヤ会)事務局

住所変更はこちら



卒業期	卒業年月	同窓会員数
第37期	平成2年 3月	601
第38期	平成3年 3月	636
第39期	平成4年 3月	598
第40期	平成5年 3月	602
第41期	平成6年 3月	586
第42期	平成7年 3月	569
第43期	平成8年 3月	629
第44期	平成9年 3月	574
第45期	平成10年3月	469
第46期	平成11年3月	598
第47期	平成12年3月	586
第48期	平成13年3月	566
第49期	平成14年3月	533
第50期	平成15年3月	458
第51期	平成16年3月	536
第52期	平成17年3月	559
第53期	平成18年3月	490
第54期	平成19年3月	421
第55期	平成20年3月	521
第56期	平成21年3月	512
第57期	平成22年3月	493
第58期	平成23年3月	485
第59期	平成24年3月	404
第60期	平成25年3月	484
第61期	平成26年3月	481
第62期	平成27年3月	430
第63期	平成28年3月	435
第64期	平成29年3月	523
第65期	平成30年3月	445
第66期	平成31年3月	419
合計		36,565

返信はがき掲載希望コメント

太楽進氏(電気科:昭和48年3月卒業 現住所:神奈川県)
ご存知とは思いますが、相模鉄道の社員で日大東北工業高等学校出身者でアカシヤ会なるものを立ち上げ、年数回旅行とか飲み会を開催し親睦を図っております。私が最後の定年者で、最年長者が75歳、最年少63歳となりました。当時の母校はマンモス高で1クラス96名でした。思い出深い3年間でした。今では進学校とお聞きしております。これからも日本大学東北高等学校の躍進をお祈りしております。

追伸、毎年高校野球を楽しみにしております。どうか聖光学院を破り甲子園出場を期待しております。出場した暁には、相鉄アカシヤ会全員で応援に行きます。

鈴木盛雄氏(普通科:昭和40年3月卒業 現住所:宮城県)
私は卒業後、日本大学経済学部に進学し、昭和44年3月卒業し、社会人となり、現在は宮城県富谷市に住んで居ります。在学担任は、阿部雄一先生でした。先生の退職祝を開催し、師と級友との再会を楽しんだ思い出があります。それ以後再会の機会も無く、退職教職員の会の師の姿を拝顔し、懐かしく思っております。師の現在の住所等がわかればと思います。連絡を待つて居ります。宜しくお願い申し上げます。

長久保宏人氏(電気科:昭和27年3月卒業 現住所:福島県)
「桜朶」第16号、ご恵送いただきありがとうございました。写真と記事による母校からの便り、懐かしく嬉しく拝読いたしました。拙文の根源は根本です。小生旅行が好きで、海外にも23回ほど行っています。旅行記を2冊出版しました。同級生の会田、根本、福田君らと訪れたく思っています。

新田清喜氏(建築科:昭和45年3月卒業 現住所:神奈川県)
在学中は楽しい事や悔しい事等沢山ありましたが卒業後は良い仕事に就き忙しい毎日を過ごしました。気が付けば卒業してから50年になろうとしています。その間同級生達の事、また母校の事など考えた事も無かったです。おかげ様でまた仕事と言うものから卒後をすることができました。時間も出来色々趣味などに没頭している時フト頭を過ったのは高校の時の同級生達の事でした。「皆今頃何をしているのだろう?」「今更連絡先を教えてくださいなんて調子の良い事言えないだろうな!」と思いました。でも恥を忍んで!誰か連絡ください!!メールで良いので同級会の幹事をやっている方、何か昭和45年建築科卒業の小さな会をやっている方がいれば下記メールアドレスにお願いいたします。
メールアドレス: tonouti56@yahoo.co.jp まで宜しくお願いです。

お悔やみ 心よりご冥福をお祈り申し上げます。

佐藤 司 先生
平成30年11月2日 享年84歳

藤谷 周孝 先生
平成30年7月17日 享年82歳
昭和30年卒 2期 機械科

伊藤和幸氏(電気科:平成2年3月卒業 現住所:福島県)
高校時代から書道教室に通い、現在では墨雅書道会常任理事、田村市船引町書道協会幹事、館書道教室会長、元船引町消防団本団所属。振り返ると、自殺未遂、会社解雇、リストラ、苛められたり、いろいろ経験してきました。今の自分があるのは高校時代の恩師斎藤政雄先生との出会いがあったからです。いつも温かい心で教えて下さりクラスの皆を和やかにして下さる先生でした。今まで出会った方々がいたから、私はどんなに苦しくても、頑張っただけです。心より感謝申し上げます。今までお世話になった全ての皆様に感謝。



佐藤八郎氏(工業科:昭和29年3月卒業 現住所:福島県)
桜朶第16号送りにいただきありがとうございます。新校舎新築おめでとうございます。私は一期生昭和29年卒業で旧兵舎で学んだ者です。公務員生活42年間勤務し定年後23年に入ろうとしています。83歳となり毎日平凡な生活です。新校舎落成後見学に行きたいと思っております。同窓会の発表を願っております。

●皆さんの近況をお知らせください。
クラス会の呼び掛けや近況報告を会報に掲載することができます。

※会報に掲載を希望する方は、に印をしてください。 掲載希望
に印がない場合は掲載をいたしません。

Blank area for writing comments, with horizontal dashed lines for text entry.

※本用紙に記入された個人情報は会報・案内を送付する際に使用します。今後継続して、事務局からの案内の送付を希望されない方は、下記の印を付して返送もしくはホームページよりご連絡ください。

会報・案内の送付を希望しない。



桜采編集部よりお知らせ

★次回の桜采18号(2020年夏発行予定)の原稿を募集します。

- ①高校時代の思い出600～1000字程度。
- ②現況報告は裏表紙の郵便はがきで「掲載希望」にチェックを入れ投函して下さい。
※詳しくは桜采編集部まで。 ☎024-956-8852 (高橋 敏行)

★第26期生の還暦同期会代表幹事を募集します。

- 現在58歳～59歳(昭和54年3月卒)の方が対象です。
※詳しくは同窓会事務局まで。 ☎024-956-8844 (宗像 忠典)

編集後記

昨秋、娘さんご夫婦とお孫さんを連れて愛媛県今治市からワゴン車で母校を訪問された方がいた。昭和33年卒建設科2組第5期生N氏である。『母校のあゆみ(同窓会編集映像)』に合わせて学生歌(校歌)を歌う姿に、「おじいちゃん覚えてんの?」と驚くお孫さん。「当たり前だ、母校の校歌だ。」と誇らしげである。木造校舎の映像を見つめるそのまなざしは高校時代を懐かしんでいるようだ。「新校舎」を見せてと依頼され戸惑う私

に、卒業当時はなかった1号館のことだと笑う。8月に癌の転移が発覚し、最後の旅行地として魂の故郷(母校)を選んだという。南門脇の木造兵舎で記念撮影。「また来られるかな…」とつぶやくN氏。「再来年の春に新校舎が完成します。またご案内します!」と答えると、小さく頷かれた。あれから1年。令和の「新校舎」が間もなく竣工を迎えようとしている。

※17号発行にご協力くださったすべての方々に心よりお礼申し上げます。(桜采編集部)

《同窓会のHP(ホームページ)について》

同窓会のHPでは、「住所変更」や「お問い合わせ」が可能です。

さらに会報誌「桜采OUDA」1号～16号のバックナンバーもご覧いただけます。 <http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



郵便はがき

料金受取人払



9 6 3 1 1 9 0

郡山市田村町徳定字中河原 1

日本大学東北高等学校

同窓会 行

差出有効期限
令和3年7月31日迄
です。切手をはらず
にお出ください。



現住所	〒		都道府県
TEL	携帯		
氏名	生年月日	男・女	
卒業年	※いずれかに○をつけてください。 建設・機械・電気・工業化学 普通・土木・建築		

【個人情報の取り扱いについて】

1 ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。(同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等) 同窓会会員名簿の作成。
上記1の使用に当たっては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

2 個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

3 個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

4 個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会(日本大学東北高等学校同窓会(アカシヤ会)へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ

日本大学東北高等学校同窓会

郡山市田村町徳定字中河原 1

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



同窓会HP